

八水高漁獲マグロ美味！

八学大の応援プロジェクト

報告会で振る舞い

八戸

八戸学院大学（水野眞佐夫学長）は8日、八戸水産高校（藤澤重信校長）の生徒たちが今秋に実習船「青森丸」に乗ってハワイ沖で行ったマグロはえ縄漁業実習の成果報告会を八戸クランドホテルで開いた。漁獲したマグロも振る舞われ、関係者が舌鼓を打った。（高松拓輝）



報告会は同大学が進める同実習応援プロジェクトの一環で、航海実習に取り組む生徒を支援し八戸港の新たな水産資源活用につなげようと今年から始まった。生徒や保護者が参加する屋の部と、学校や水産関係者らの夜の部の2回開催。



【写真右】マグロはえ縄漁業実習の様子などを写真や動画で紹介した報告会【同上】八戸水産高校の生徒が漁獲したメバチマグロを食べる出席者

約150人が参加した夜の部で水野学長は「海の若人を応援しつつ、冷凍マグロのおいしさを地元の人にも味わってもらえれば」とあいさつ。藤澤校長は「生徒たちは日本の水産業を支える貴重な人材。生徒の頑張りを報告できたことは大変うれしい」と話した。高校の水産工学科教諭がスクリーンを使って実習や船内生活の様子などを報告した。マグロは刺し身やすし、カルパッチョ、ステーキで提供された。八戸学院大学4年の小野田未樹さん(22)は「高校生が苦労して取ったマグロなので、いっそうおいしく感じる」と話した。大学は今後、有識者らで研究会をつくり、八戸港での冷凍マグロの利活用について検討する。青森丸は9月5日に同港を出港。ハワイ北方海域で75日間の国際航海実習で漁獲し船内凍結したメバチマグロ約31トンを神奈川県三崎港に11月15日に水揚げした。うち約300キを大学が仲買業者を通じて購入。実習船に乗せて11月18日に八戸港に運んだ。